

Maruzen eBooks Library

岩波書店

現代人の教養

Maruzen eBook Library にある岩波書店の文庫・新書の中から、先生方に選書していただきました。次ページより、先生方の選書コメントを掲載していますので、ぜひ Maruzen eBook Library の「現代人の教養」をご利用ください。

Maruzen eBook Library のアクセス方法

学内のパソコンから、図書館 HP にある Maruzen eBook Library のアイコンをクリック！



※リモートアクセスに登録すれば、学外からでも利用が可能です。

詳しくはこちらの QR コードから！



物理学とは何だろうか 上 朝永振一郎 著		数学の学び方・教え方 遠山啓 著	
物理学とは何だろうか 下 朝永振一郎 著			はしがきからの引用になりますが「もともと数学は単純な学問で、急所をわからせることができたなら、どんな人にもわかるようにできています。」という記述が印象的でした。数学は公式を使って答えを出すためのものではなく、論理的に考えて答えを導き出す学問です。じっくりと読んでみてください。同著者の著名な絵本「算数の探検シリーズ」を1号館と呉分館に配架してあります。これもおすすめです。 (図書館長 向田一郎先生)
	日本人で二人目のノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎の有名な初学者向けの著書です。上巻は16世紀のケプラーが惑星の運動を観測データから正確に導き出したお話から、熱力学までを下巻では原子論を中心に統計力学までをわかりやすく書いてあります。 (図書館長 向田一郎先生)		

ご冗談でしょう、ファインマンさん 上		
R. P. ファインマン 著／大貫 昌子 訳		
ご冗談でしょう、ファインマンさん 下		
R. P. ファインマン 著／大貫 昌子 訳		
	カリフォルニア工科大学の名物講義「ファインマン物理学」で有名な物理学者 R.P.ファインマンのユーモアにあふれた自伝です。持ち前の探求心と、いたずら好きの笑えるエピソードの中に科学への真摯な態度が見えるとても楽しい読み物です。下巻の最初のエピソード“ラッキー・ナンバー”は彼の頭の切れを実感するものでした。 (図書館長 向田一郎先生)	アメリカの物理学者、ファインマンの自伝。子供時代からの、抽象的なものを具体的な数値で考えることであっさり理解できたという様々なエピソード。私は数字が苦手だが、それを乗り越える価値(楽しみ)がある事を教えてくれた。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

銀の匙 中勘助 著		ロウソクの科学 ファラデー 著／竹内敬人 訳	
	進学校として超有名な灘校の国語の授業で教材になった有名な作品です。夏目漱石が「これほど美しい日本語はない」と褒めた文章で、ひよわな子供がたくましい青年に成長する物語が綴られています。 (図書館長 向田一郎先生)		2019年度ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんが愛読していたことで有名になった本で、「ロウソク」といった身近な材料をもとに、「なぜだろう」という科学的な思考を刺激してくれる。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)

生物から見た世界 ユクスキュル、クリサート 著／ 日高敏隆，羽田節子 訳	
	個々の生物の生き方の面白さと共に、多様性の時代といわれる現代において、人々の生き方も考えさせられる。 (診療放射線学科 笛吹修治先生) 生物学の本でありながら、ドイツ観念論と同様の結論に達している本で、非常に興味深い。 (心理学科 甲田純生先生)

心と脳 認知科学入門 安西祐一郎 著／		タンパク質の一生 生命活動の舞台裏 永田和宏 著／	
	私の好きな言葉に「人間は一人では生きていけない」があります。予測不能な時代を、人として生きていくためには何が必要か考えるきっかけになる本です。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)		生命を維持するためにタンパク質がどのように働いているか、丁寧に描いてある。病気の原因を理解するためにも読んで欲しい本である。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)

ウイルスと人間 山内一也 著／		オイディプス王 ソポクレス 著／藤沢令夫 訳	
	今だから読んで欲しい本。正しく理解して役立てて欲しい。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)		精神分析の創始者S. フロイトの「エディプス・コンプレックス」概念のもとになったギリシャ悲劇です。精神分析に興味のある方にぜひ一読お勧めします。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

こころ 夏目漱石 著		ソクラテスの弁明 クリトン プラトン 著／久保勉 訳	
	こころは揺れ動く。こころには光と影がある。「真面目に生きる」とは何か？「先生」との対話によってさらに迷宮に迷い込む。そんな作品です。ぜひ一読をおすすめします。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)		獄中のソクラテスを脱獄させようと密かに潜入した幼馴染クリトンに「人間はただ生きるのではなく、善く生きるのだ」と言い放って毒をあおるソクラテスの生き方に感動しました。現在よく使われるwell-beingという言葉の始まりではないでしょうか。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

江戸川乱歩短篇集 千葉俊二 編	
	私は所収の「押絵と旅する男」を乱歩先生の最高傑作だと信じております。この駄作として著者によりいったんごみ入れに捨てられようとした作品こそ「乱歩文学」の真骨頂です。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生) 江戸川乱歩。日本の探偵小説の父。明智小五郎、少年探偵団、怪人二十面相のイメージが強いが、むしろ、エロ・グロ、幻想小説の方に、心惹かれる作品が多い。乱歩作品の幅広さを存分に味わえる一冊。 「いけません。いけません。それはさかさですよ。さかさに覗いてはいけません。いけません」 なぜ双眼鏡を逆に覗いてはいけないのか？ 答えは、「押絵と旅する男」にある。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

人間失格 グッド・バイ 他一篇 太宰治 著	
	作者は「人間失格」と自身を呼ぶが、井上ひさしは「人間合格」と言う。どちらなのかは一読されて判断ください。少年時代・青年時代・大人になってから何度も読み返した作品は「人間失格」しかありません。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生) 読者に「これは私のことではないか」と思わせる名人が太宰である。それが今なお高い人気の秘密かもしれない。 (心理学科 甲田純生先生)

新版 きけ わだつみのこえ 日本戦没学生の手記 日本戦没学生記念会 編 著	
	選者の精神分析での師・樋口由子先生の実弟・馬場充貴氏の歌が載っております。樋口先生は100歳近くまでご存命でしたが、いつも24歳でベトナムのナトラン沖で散った弟さんのことを話しておられました。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生) 日中戦争から太平洋戦争に至るまでの長い戦争が終わって75年。もうその経験者はずいぶん少なくなりました。生まれてからずっと戦争だったと言っていた母もなくなり、学徒出陣から幸い生きて帰ってきた父もなくなった。しかし、戦争の中で失われた命も父や母と同じ生涯を歩めたはずなのだ。戦死した人も生き残った人も何も特別なものではなく、今を生きる大学生と同じだった。彼らの声を聞きたい。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

文学部唯野教授 筒井康隆 著	
	ある大学であった本当の事件なども盛り込まれており、単なるフィクションとは思われる作品です。作品から感じられる作者はハチャメチャな人を想像しますが、本当にハチャメチャの人はハチャメチャな作品を書けません。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

獄中記 佐藤優 著	
	「外務省のラスプーチン」と呼ばれた人物の本です。しかし実際の著者はロシア語はたぶん現在日本で5本の指に入る人ですし、もともと神学を志したこともある方で極力真面目な方です。たしか同志社大学のご出身ではなかったかと思ひます。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

森の生活 上 (ウォールデン) ソロー 著／飯田実 訳	
森の生活 下 (ウォールデン) ソロー 著／飯田実 訳	
	いわゆる「アウトドア・ブーム」の火付け役となった作品です。自然保護運動のバイブルとも呼ばれています。著者はハーバード大学の出身ですがハーバードを揶揄している文章もあり、面白い人です。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

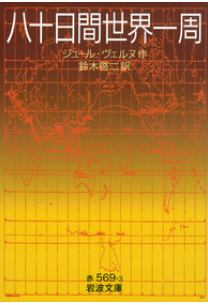
自選 谷川俊太郎詩集 谷川俊太郎 著	
	谷川(たにかわ)俊太郎。日本を代表する詩人。「生きる」「ことばあそびうた」「スイミー」(翻訳)、「スヌーピー」(翻訳)など、代表作が多数。現在88歳。 歩いている 自分の二本の脚で 歩いている いつか歩けなくなる としても いまは歩ける幸せ (「歩く」より) CMにもなった「朝のリレー」は載っていない。他のアンソロジーと比べても面白そう。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

日本語練習帳 大野晋 著	
	20年ぐらい前の大ベストセラー。だいぶ前の本だけど、日本語の読み方、書き方のコツって、そんなに変わらないのだ。単語や語彙といった、小さなものへの感度を高めることの大切さを説く第一章「単語に敏感になろう」も良いのですが、文章の構成を考える方法を具体的に指南する第四章「文章の骨格」の、文章を「縮約」する作業のくだりは、目から鱗！ 興味が広がれば、続編にあたる『日本語の教室』(岩波新書)がオススメ。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

読書について 他二篇 ショウペンハウエル 著／ 斎藤忍随 訳	
	読書は他人にもの考えてもらうことである。 表題作は、21ページと短い。本を読むのが嫌いな人は、この本で、しっかり理論武装しよう！ 読書は「読まずにすまず技術」が何より肝要なのだ。この本を選んだ人は、Maruzen eBook Libraryの、齋藤孝『読書力』にも興味を持つはずだ。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

現代秀歌 永田和宏 著	
	一日が過ぎれば一日減ってゆくきみの時間 もうすぐ夏至だ 著者が、１００年、２００年と読み継がれることを願って編んだ、現代短歌のアンソロジー。これだけは知っておきたい、１００人の１００首が取り上げられる。解説付きで、状況も分かりやすい。掲出歌は、それらとは別に「おわりに」で触れられた著者の歌。授業で取り上げて、どんな歌か書いてもらおうと、中高生の青春の一場面をイメージする人も多いけれど、実は……。著者の和歌に対する思いを知るために、「おわりに」から目を通してよいかも。 ちなみに、Maruzen eBook Library では、同じ著者の『近代秀歌』『タンパク質の一生 生命活動の舞台裏』も読める。後者は何？ と思った人は、ちょっとググってみよう！ (医療福祉学科 田野慎二先生)

詩のころを読む 茨木のり子 著		武士道 新渡戸稲造 著／矢内原忠雄 訳	
	東日本大震災の後、被災地で行われた成人式で吉野弘の「いのち」が朗読されたという番組を見たことがある（クローズアップ現代＋「いまを生きる言葉」～詩人・吉野弘の世界～）。詩が生きることの支えになることは、確かにあるのだ。そんな詩への出会いの一つとして最適の一冊。 Maruzen eBook Library では『茨木のり子詩集』も読める。「自分の感受性くらい」で、心地よく叱られてみよう！ (医療福祉学科 田野慎二先生)		武士道はその表徴たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である。 ２０１９年ラグビーワールドカップ日本大会は盛り上がった。日本代表ユニフォームのデザインコンセプトは兜。合宿所には、志気を鼓舞するために甲冑が飾られ、代表から外れることになった選手には、リーチマイケル選手から、刀（レプリカ）が贈られていた。今も日本は、サムライの国なのだ。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

八十日間世界一周 ジュール・ヴェルヌ 著／鈴木啓二 訳	
	ところで、結局？ この旅行から彼は何を得たのであろうか？ 何を持ち帰ったのであろう？ 近代空想科学小説の先駆者ジュール・ベルヌの代表作。書かれたのは、明治５（１８７２）年というから驚き。日本では、新橋横浜間の鉄道が開通したのがちょうどこの年。もう読んだという人は、マシュー・グッドマン著、金原瑞人・井上里訳『ヴェルヌ『八十日間世界一周』に挑む』がオススメ。原作から１６年後、実際にヴェルヌの創作に挑んだ二人の女性記者がアメリカにいたのだ！ (医療福祉学科 田野慎二先生)

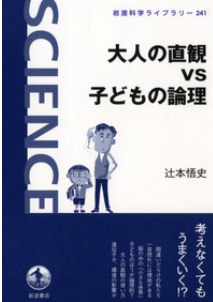
蟹工船 一九二八・三・一五 小林多喜二 著		折々のうた 大岡信 著	
	「おい地獄さ行(え)ぐんだで！」 蟹工船内の過酷な労働環境を描いたプロレタリア文学の金字塔。2008年度には、新語・流行語にトップ10にも選ばれ(「蟹工船(ブーム)」)、再脚光を浴びた。松田龍平主演の映画あり。『まんがで読破 蟹工船』(イースト・プレス)は本学図書館にも所蔵。 2008年前後の社会状況を知りたい人のためには、Maruzen eBook Libraryの、湯浅誠『反貧困「すべり台社会」からの脱出』などがオススメ。 (医療福祉学科 田野慎二先生)		十四日、オ昼スギヨリ、歌ヲヨミ、ワタクシ内へ、オイデクダサレ これは、正岡子規が門人に宛てた葉書に書いた短歌。彼を自宅へ誘った短歌。短歌は、身近な日常的なものでもあった。 本書は、詩人・大岡信が、「朝日新聞」朝刊一面で連載したコラムを再編集したもの。連載は三十年近く続き、岩波新書でシリーズ化された、日本の短詩型文学の一大アンソロジー。「折り」(時節・季節)を大事にするのが日本の文化の特徴。いろんな詩歌に気軽に触れたいときに頼れる一冊。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

坊っちゃん 夏目漱石 著		小僧の神様 他十篇 志賀直哉 著	
	漱石は明治の二大文豪の一人であり、日本文学界きっての名文家である。リズムのある美しい日本語を味わってほしい。 (心理学科 甲田純生先生)		 志賀直哉の文章は、さりげなさの中に朴訥とした美しさがある。決して読み急がずその日本語を玩味してほしい。 (心理学科 甲田純生先生)

ソクラテス 田中美知太郎 著		日本の思想 丸山真男 著	
	田中美知太郎は、日本におけるギリシア哲学の大御所である。ソクラテスの生き様はまさに哲学そのもので、哲学の入門書としてもよい。 (心理学科 甲田純生先生)		 丸山真男の代表作であり、日本人の心根がわかる良書である。 (心理学科 甲田純生先生)

中原中也詩集 大岡昇平 編		論語 金谷治 訳注	
	有名な「汚れちまった悲しみに」だけでも是非味わってほしい。 (心理学科 甲田純生先生)		ここには先人の知恵が詰まっている。肩肘張らずに気軽に読んでみよう。生きるために必要な多くのことを教えられるはずだ。 (心理学科 甲田純生先生)

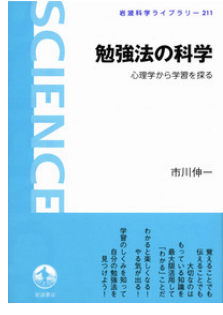
山月記・李陵 他九篇 中島敦 著		
	中島敦は漢字が多くて苦手だという人もいるかもしれないが、辞書を引きつつ頑張って読めばその美しさに気がつくだろう。 (心理学科 甲田純生先生)	高校の国語の漢字の宿題として「李陵」が課されたのが出会い。併載されていた「名人伝」が、今になれば心に響く。弓の名人ならんとして修行を積んだ結果、矢を射ることなく鳥を落とすまでになったのだが、その最後は… (救急救命学科 青山裕彦先生)

永遠平和のために カント 著／宇都宮芳明 訳		大人の直観 vs 子どもの論理 辻本悟史 著	
	カントの哲学書は専門家以外には手がつけられないが、この本は専門外の人にも読むことができる。 (心理学科 甲田純生先生)		本書では、「異性を長く見ていると魅力的に感じやすい」「吊り橋効果」など、大人が思わずしている論理的でない行動や、意外と論理的な子どもの行動について、認知心理学・脳科学の観点から説明されています。何気なくしている普段の行動の背後にある心理的傾向や、脳の働きを知ることができます。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

外国語学習に成功する人、しない人 第二言語習得論への招待 白井恭弘 著		大学とは何か 吉見俊哉 著	
	言語習得研究の知見をもとに、日本語母語話者がなかなか英語を使えるようにならない理由、語学学習に向いている人、効果が出やすい学習法などについて書かれています。英語力が思ったように伸びない人は、本書を参考に、学習の仕方を見直してみるとよいかもしれません。 (医療福祉学科 杉本巧先生)		「大学とは何か」と問われると、学生、保護者、教員、事務職員、大学経営者それぞれが異なった回答をするでしょう。大学という場をどう捉えるかは、そこで行われるコミュニケーションにも大きな影響を与えます。本書のキーワードは、「メディアとしての」大学です。大学の歴史的変遷をたどったうえで、その現代的な意味を論じています。自分が居る場所の意味を考えてみましょう。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

新版 アフォーダンス 佐々木正人 著		村上春樹は、むずかしい 加藤典洋 著	
	あなたの目の前にある一枚の紙が「破れる」かどうか、なぜ分かるのでしょうか。それは、紙が「破れる」という意味をあなたに与えている、「アフォード」しているからです。本書は、人間の知覚だけでなく、環境で動き回るロボット（AI）の開発においても重要な概念である「アフォーダンス」について、初学者向けに解説しています。 (医療福祉学科 杉本巧先生)		村上春樹の「文学的達成の実質を計量する」ことを狙いとする本です。村上作品を年代順に精緻に紐解きながら、各作品の文学（界）的な位置や価値が丹念に論じられています。毎回のようにノーベル文学賞が期待されるベストセラー作家としてしか知らない人も、読んでみると村上作品に興味湧くかもしれません。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

やさしい日本語ー多文化共生社会へ 庵功雄 著		科学の目 科学のころ 長谷川眞理子 著	
	近年、外国から日本に移住する人が増加しています。中には日本語が十分に使えない人もいます。では、そのような人たちに、大災害や感染症拡大などの緊急事態や、医療場面などでどうやって必要な情報を伝えればよいでしょうか。本書では、日本語が十分に使えない人たちとともに暮らすための「共通語」である「やさしい日本語」の考え方を具体的に解説しています。 (医療福祉学科 杉本巧先生)		本書は、科学が好きな人が少しでも増えてほしいという思いで書かれています。身近な出来事を生物学や生態学といった科学的知見から読み解いていきます。たとえば、国同士の軍拡競争が生じる理由を、カッコウとカッコウに寄生する鳥との関係になぞらえて考えていきます。科学的なものの見方の導入として適しているでしょう。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

ちいさい言語学者の冒険ー子どもに学ぶことばの秘密 広瀬友紀 著		勉強法の科学 心理学から学習を探る 市川伸一 著	
	子どものころ、「死ぬ」を「死む」と言っていたという記憶はないでしょうか。これは、「ちいさい言語学者」である子どもが大人のことに触れながら、ことばのルールを見つけるために仮説を立て、試行錯誤しているからこそ生じる誤りです。特に将来親になる人、子どもと接する職業に就く人は、本書を読んでおくと、子どもとの会話が楽しく、刺激的なものになるでしょう。 (医療福祉学科 杉本巧先生)		覚えたはずの用語が必要なときに出てこない、試験の時は覚えていたのに時間が経つと忘れていなど、勉強法についての悩みは多いでしょう。記憶を定着させ、必要なときに使う覚え方、同じ勉強時間でより深い理解にする学習方法など、認知科学の成果に基づいて具体的に解説されています。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

知的生産の技術 梅棹忠夫 著		
	知的に情報を生産する技術をまとめたエッセイです。スマホやパソコンなど全く使われていないところに書かれた本ですが、カードを使ったメモや記録の整理、それらを元にした原稿執筆など、現代的なツールに置き換えながら活用できるアイデアが満載です。 (医療福祉学科 杉本巧先生)	パソコンもスマホもなかった時代の「知的生産の技術」。紙のカードにデータを記し、それを色々組み合わせていくうちに新しいストーリー、考え、仮説など、「知的産物」が見えてくる。現在、パソコンで、データベースや、表計算、ワープロなどのソフトがどのように活用できるか、その基本となる考え方この。著者は京大理学部出身というより、探検部出身とよく言われた。フィールドワークを主体とする文化人類学、民俗学の徒であった。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

忘れられた日本人 宮本常一 著		市民科学者として生きる 高木仁三郎 著	
	著者は日本中を歩いて、消えゆく習俗を集めて回った民俗学者。その一編、村での物事の決め方が印象深かった。問題が起きると数日間、寄合所で誰彼なしにそれぞれ意見を述べあう。その間、入れ替わり立ち替わり人は出入りする。最後に長老が発する言葉にみんな納得する。一見専制であるが、みんな思いの丈を述べ、それを長老が汲み上げているのであろう。互いの信頼関係があってこそその制度だとは思うが。 (救急救命学科 青山裕彦先生)		“フクシマ”以前、原子力発電所の危険性を言っても、事故など天文学的に低い確率でしか起きないから大丈夫、と言われるのがオチであった。そのような状況の中で、都立大助教授をやめて、原子力資料情報室という今で言えばNPOを立ち上げ、原発の危険性を科学的根拠に基づいて訴え続けた核化学者の歩み。自分の専門性を社会にどう生かすかを考えさせられる。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

科学の方法 中谷宇吉郎 著		AKB48, 被災地へ行く 石原真 著	
	「科学的」な根拠を求められたり、「科学的」だから正しいと主張されたりする。では「科学的」とはどういうことだろう？ 物理学者、中谷宇吉郎は寺田寅彦の随筆の面でも弟子である。別の随筆に「立春の卵」がある。立春には水平な板の上に卵を立てられる、と聞き、やってみると多くの人が立てられた。さて、この説は正しいだろうか？ それを判断できる力が「科学的」な力である。 (救急救命学科 青山裕彦先生)		高橋みなみの凜とした「黙祷」の声ののち、コンサートが始まる。東日本大震災の被災地の野外である。AKB48 の人気がおそらく最高であった時期、震災直後から4年間、被災地各地をメンバー6人ずつで回った記録。「アイドル」が被災者の生きる力、死者の追悼、にどう関わられるのか？ 人は誰かのために何ができるのかを各々考えるきっかけに。(メンバーの多くがすでにAKBグループを離れていることに時の流れを実感させられますが。) (救急救命学科 青山裕彦先生)

皮膚は考える 傳田光洋 著		99歳一日一言 むのたけじ 著	
	体を包んでくれる「皮膚」は、危険を察知する重要な感覚器でもある、くらはみんな体で感じて知っている。しかし、皮膚の細胞自身が神経細胞のように外界からの刺激に反応する事を、資生堂で研究する著者が発見した。 (救急救命学科 青山裕彦先生)		著者むの・たけじは、1945年8月15日に朝日新聞社を退職した退職の理由は、戦争中の朝日新聞について誰一人責任を取ろうとしないのを見て憤ったためという。その後、一人で、週刊新聞「たいまつ」を1987年まで発行し続けた。反戦の言論を続けることは、彼にとって、自分の言動に責任を取ることであった。「たいまつ」休刊後も101歳で亡くなるまで発信し続けた人と会話したい。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

先生！ 池上彰 編		幸福の増税論－財政はだれのために 井手英策 著	
	池上彰さんの新聞に掲載されている学生論はとても興味深い (医療経営学科 成清哲也先生)		高福祉高負担はこれからの日本を考えるうえで重要な選択肢となろう (医療経営学科 成清哲也先生)

がん免疫療法とは何か 本庶佑 著		新・ローマ帝国衰亡史 南川高志 著	
	がんの治療法の 4 つ目として期待されている。 (医療経営学科 成清哲也先生)		ローマ帝国の衰退からこれからの日本の在り方を考える (医療経営学科 成清哲也先生)
日本をどのような国にするかー地球と世界の大問題 丹羽宇一郎 著		イタリア史 10 講 北村暁夫 著	
	まさにビジネス界のインテリ、興味深い。 (医療経営学科 成清哲也先生)		イタリアは現在のヨーロッパ文明の源であり、いつの時代でも興味深い (医療経営学科 成清哲也先生)
平成経済 衰退の本質 金子勝 著		ゲーム理論入門の入門 鎌田雄一郎 著	
	失われた 20 年について改めて検討が必要であろう (医療経営学科 成清哲也先生)		ゲーム理論は社会人として欠かせない知識となった (医療経営学科 成清哲也先生)
君主論 マキアヴェッリ 著／河島英昭 訳		トランプのアメリカに住む 吉見俊哉 著	
	ローマ人の物語の作者である塩野七海がよく引用する (医療経営学科 成清哲也先生)		ポピュリズムの台頭を震源地から考える (医療経営学科 成清哲也先生)

化鳥・三尺角 他六篇 泉鏡花 著		ロビンソン・クルーソー 上 デフォー 著／平井正穂 訳	
阿Q正伝・狂人日記 他十二篇 呐喊 魯迅 著／竹内好 訳		ロビンソン・クルーソー 下 デフォー 著／平井正穂 訳	
ホメロス オデュッセイア 上 全二冊 松平千秋 訳		かもめ チェーホフ 作／浦雅春 訳	
ホメロス オデュッセイア 下 全二冊 松平千秋 訳		古代への情熱 シュリーマン自伝 シュリーマン 著／村田 数之亮 訳	
マルクス エンゲルス 共産党宣言 大内兵衛 訳／向坂逸郎 訳		雪 中谷宇吉郎 著	
羊の歌 わが回想 加藤周一 著		沖縄密約 「情報犯罪」と日米同盟 西山太吉 著	
続羊の歌 わが回想 加藤周一 著		信長の城 千田嘉博 著	
バナナと日本人 フィリピン農園と食卓の あいだ 鶴見良行 著		ルポ トランプ王国 もう一つのアメリカ カを行く 金成隆一 著	
科学者と戦争 池内了 著		和漢診療学 あたらしい漢方 寺澤捷年 著	
この世界の片隅で 山代巴 編		エビと日本人 村井吉敬 著	
ヒロシマ・ノート 大江健三郎 著		アラン 幸福論 神谷幹夫 訳	
日本社会の歴史 上 網野善彦 著		バブル経済事件の深層 奥山俊宏、村山治 著	
日本社会の歴史 中 網野善彦 著		マキアヴェッリ 『君主論』をよむ 鹿子生浩輝 著	
日本社会の歴史 下 網野善彦 著		漢語の知識 一海知義 著	
〈いのち〉とがん 患者となって考えたこと 坂井律子 著		生物多様性と私たち COP10 から未来へ 香坂玲 著	
自分力を高める 今北純一 著		平安女子の楽しい！生活 川村裕子 著	

iPS細胞はいつ患者に届くのか 再生医療のフロンティア 塚崎朝子 著		おなかの赤ちゃんは光を感じるか 生物時計とメラノプシン 太田英伸 著	
キリンの斑論争と寺田寅彦 松下貢 編		深読み！絵本『せいめいのれきし』 真鍋真 著	